2-3

富士フイルム株式会社

環境情報開示基準の標準化により、環境性能に関する訴求力を向上

クローズ
評価
オープン
性能標準・評価方法のオープン化

- **印刷分野では、環境情報開示に関する基準が整備されていなかったため、環境性能の面において他社製品との差別化を図ることが困難な状況にあった。**
- **既存の国連規定（MSDSやGHS）を基盤に、環境情報伝達の要件と基準に関するISO規格を開発。環境性能の優劣を「見える化」させ、製品の優位性訴求につなげている。**

ビジョン・課題認識

- 印刷材料の環境リスクは、国連が策定した「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」（GHS）により伝達されるが、**ルールとおりに運用されていないケースが多く、日本製品の優れた環境性能が発揮できない状況**が続いていた。
- 製品・サービスの**環境性能の高さを客観的に証明することができず、製品・サービスを販売に直接結びつけることが難しかった。**

ビジネス上の効果

- 規格による環境性能比較により、**製品の優位性である環境性能の高さを顧客や消費者に客観的に訴求**することに成功した。
- **外国製品に代わって日本製印刷機の採用例が出始める**など、標準化の効果が業界でも表れてきている。

戦略の背景にあった狙い、オープン&クローズ戦略、具体的なアクション

性能標準・評価方法のオープン化

- **自社製品の提供価値を再定義し、その評価方法や基準を標準化**することで**自社製品の優位性をアピール**。競争激化した既存市場において、**新たな付加価値で自社製品等のシェア拡大**を目指した。
- **クローズ戦略**としては、優れた環境性能を持つ製品・サービスの製造技術等を特許権で管理し、**提供価値を高効率かつ高性能に実現する環境を構築した。**
- **オープン戦略**としては、製紙業界をはじめとした関連業界からの強い反対をISO中央事務局等の協力で乗り切り、印刷業界全体での環境情報開示基準となる「環境情報伝達の要件と基準に関するISO規格」（ISO 22067-1）を、**既存の国連規定（MSDSやGHS）を基盤**としながら制定。**環境性能の優劣を「見える化」させ、自社製品の優位性訴求に活用**した。

FUJIFILM
Jet Press 750S

経済産業省：令和5年度　産業標準化事業表彰
<https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/keihatsu/hyosho/interview/R05fy/20231017-07.html>